

# 経営部門

宮崎県都城市高野町

前田美雪

3畜種を親子で分業、畜産複合経営  
の利点を活かした繁殖専門経営



前田さんご夫妻

平成 11 年度全国優良畜産経営管理技術発表会で農林大臣賞受賞

(主催：社団法人中央畜産会)

平成 12 年度畜産大賞経営部門優秀賞受賞

(主催：社団法人中央畜産会)

平成 11 年、当時独身だった前田美雪さんは「女性でもやれる肉用牛繁殖 100 頭経営」と題して発表し、コンクールで受賞して話題となった。前田さんは平成 3 年高校卒業後すぐ、父親から母牛 38 頭の管理を任せられたのをきっかけに、次第に実質的な肉牛経営者への道に入った。毎年 10 頭ずつ増やす計画を立て、平成 11 年に 111 頭になった所で、お嬢さんを迎えて結婚。現在 2 人で 135 頭の繁殖専門経営を行っている。

経営の特色は、

①父親が肉豚肥育 (400 頭)、母親がブロイラー (4 万羽) の委託飼育、美雪さん夫婦が繁殖牛と言うように 3 畜種から成る畜産の大規模経営を営んでいる。分業しながら助け合う複合畜産経営となっている。

②その中で頭数規模の拡大と並行して、土地面積、労働力、施設を拡充し、バランスのとれたムリのない拡大過程を歩んできた。

③子付きで空胎の母牛数頭で 1 群をつくり発情の発見を容易にしたり、同じ頃生まれた子牛を群飼し良質粗飼料を競り喰いさせるなど、多頭飼育にふさわしい飼育方式を採用している。

④堆肥との交換などにより良質稲わらの確保に力を入れると同時に、自給飼料生産を全面的に外部に委託し、投資と労力の節減を図っている。

⑤パソコンの個体管理ソフトで個体記録を入力・分析して改善に役立てているほか、家族経営協定、月給制、青色申告など、新しい経営管理方式を採り入れている。

美雪さんは、1 人で繁殖牛の多頭飼育を任されたので、一にも二にも省力化を心がけ、昼間分娩、粗飼料の無カット給与、スノコ床の採用等、いろいろな工夫を試みてきた。そ

の結果、子牛 1 頭当たり労働時間は 23.1 時間と肥育牛より少なく、労働生産性が高い。現在 2 児の母親となったが、育児と両立できるのはこういう努力の結果である。

平成 16 年の子牛（去勢）販売成績は、270 日齢、305kg、販売単価 525 千円で、いずれも市場平均を上回った。所得率約 40 %、1 頭当たり生産費は家族労働費を入れて約 28 万円と、規模拡大したが収益性は高く、コストは上昇していない。借入金残高は間もなくゼロになる見込みで、経営財務はきわめて健全である。

今後の経営の進め方としては、①規模拡大は一休みし、母牛の資質向上といった質的改善を図る、②子牛価格場が低落したら自家肥育（一貫経営）にしたい、と弾力的に考えている。



**[上の 3 枚]** 合理的な牛舎の配置と利用  
 牛群は哺乳中の子付き牛、妊牛、子牛などに群分けして、牛舎間を移動させる。発情の発見や作業の単純化等に役立っている。

**[右]** 積極的に稲わら確保

この辺りの稲ワラはいわゆるは稲架木（はさぎ）干しで品質がよい。それを丹念に 10ha 以上集めてくる。



**[左]** 堆肥舎を新設

平成 14 年に建設した堆肥舎とサイロ。堆積発酵させ、自家飼料圃への還元、稲わらとの交換に活用している。